

## ごあいさつ



代表取締役社長

佐藤 健二

当社は、「日本資本主義の父」と呼ばれた渋澤栄一を創立委員長として1906年(明治39年)に産声を上げ、今年で創立100年を迎えます。

渋澤は、ただひたすら私利私欲に走るのではなく公利公益も考え、他人の幸せのためにも力を尽くすのが商人の本分であるとする「道徳経済合一説」を唱え、自らもその実践のために数多くの会社を起こした明治経済界の大立者でした。渋澤は当社の創立に当たってもこの精神に則り、「古都・京都と商都・大阪を京街道沿いに結んで鉄道を敷設する」という、有望な事業をもって地域社会に貢献するプロジェクトを立ち上げました。

その精神を受け継ぎ、高い公共性を有する鉄道事業を営む当社が、創立以後100年の時を経た今後も持続的に発展して行くためには、沿線を中心とする地域社会との共生は重要な使命です。この使命を果たすためにも、環境への取り組みはその重要性を増しております。そもそも鉄道は自動車に比べてエネルギー効率が高く環境にやさしい交通機関ですが、当社ではただこのことのみで満足することなく、従来車両の改良による消費電力の削減など環境負荷の低減に努めてまいりました。

さらにこの取り組みを推進するべく、本年度からの中期経営計画「Jump 21」の中で、「スピード経営」「コンプライアンス経営」「ブランド経営」とともに経営品格向上のキーワードとして「環境経営」を掲げ、取り組みを進めております。

今後も当社はもちろんのこと、グループ会社においても社会の一構成員として引き続き環境への取り組みを推進し、「環境経営」を実現する所存であります。つきましては、本書をご高覧の後、当社並びにグループの環境への取り組みをより充実したものにするため、率直なご意見をお聞かせいただければ幸甚の至りです。

末筆ながら、本報告書の発行に当たり、当社の環境への取り組みに多大なる関心を寄せてくださった皆様に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。